

「クリスチャンにとって最も大切なことは何でしょうか？」こう質問されたら、皆さんだったら、どう答えるでしょうか。パウロは、読んでいただいたコリント第一 15:3-4 で「私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと」ですと書いています。クリスチャンの信仰にとって、なによりも大切なものは、キリストの十字架と復活です。特にキリストの復活は、それがなければキリスト教はなく、それを信じていなければクリスチャンではないと言って良いほど大切なものです。

### 1) 復活の事実

キリストの復活が、クリスチャンの信仰にとって大切なのは、それが変わることのない事実だからです。クリスチャンがキリストの復活を信じているのは、「キリスト教ではキリストは復活したことになるから、そのように信じておきましょう。」というわけではありません。それを事実、そのとおりのこと、「キリストはよみがえって今も生きておられる」と信じているのです。キリストの復活を本気で信じていない人は、決して「キリストは復活した」とは言いません。「キリストは復活したと『信じられていた』』と言います。キリストの復活を否定する人も、キリストの弟子たちがキリストの復活を信じたということは認めています。そして何故そんなに命がけで信じる事が出来るのか？と思ったりします。もちろん、復活を信じている人たちは変わっている、おかしい、そしてあまり深入りしない方が良いと思う人も大勢いらっしゃいます。しかし、人生で一度ぐらいは「なぜいのちがけで弟子たちはキリストの十字架と復活を信じていたのか？またその復活の信仰がどこから来たか？」を考えてみるのも意義深いことだと思うのですがいかがでしょうか？

イエスが十字架に架けられた時、弟子たちは、いずれ、自分たちもユダヤ人に捕まえられるにちがいないと、恐れ、逃げ、隠れていました。そのような弟子たちが、ユダヤ教の本拠地、エルサレムに集まり、ペンテコステの祭りの真っ最中に、恐れるべき多くの人々に対して堂々と、キリストはよみがえったと語り出したのです。もし、キリストの復活が事実でないなら、そこにいるユダヤ教の指導者は、その場ですぐに、反論することができたはずですが、イエスの遺体が納められた墓は、同じエルサレムの町中にあるのですから、イエスがその墓から復活されたのでなければ、イエスが眠っている墓の側で「キリストは復活した」と叫ぶのは狂気の沙汰です。イエスの教えを十分に理解できず、イエスから「信仰の薄い者たちよ」とお叱りを受けていた弟子たちが、こんなにも確信をもってキリストの復活を宣べ伝えることができたのは、なぜだったのでしょうか。それは、彼らがキリストの復活の事実を目撃したからです。復活の信仰は、復活の事実から来たと言えないのです。

キリストの復活を認めたくない人々は、人々のイエスを慕う思いがつのって、キリストの復活という「神話」が誕生したのだと説明します。しかし、「伝説」や「神話」というものは、何百年もしてから生み出されるもので、やがてまた消えていくものです。というより、いつ書かれたのか、誰が広めたのか？そういったことは殆ど分かりませんし、問題にもなりません。例えば日本の国の成立という時、必ず出てくる出雲大社の話もいつごろ書かれたのか、またなげうさぎやわに（さめ）が話に出てくるのかは書かれていません。いきなり登場します。しかしそれを話す人も聞く人も目くじらを立てたりはしません。自分のこととは無関係だからです。ところが、ペテロは、キリストの十字架からわずか五十日しか経っていない時に、キリストの復活を宣べ伝えました。神話や伝説が作られる時間などありませんでした。そして、

この復活のメッセージは、たちまち全世界に伝えられ、二千年の長い年月がたっても伝説や神話の世界に葬り去られることなく、今も、世界中の人々によって信じられ、それを信じた人々を生かす力となっているのです。弟子たちが「イエスはよみがえられた」と叫んで以来、二十一世紀の今日まで、キリストの復活の力は全世界の何十億という人に現実に現われているのです。聖書も国や時代、文化の違いによって表現は変わりますが元になっている原文そのものは過去も現代もそしてこれから後も変わることがありません。

パウロは、復活の事実がなければ、クリスチャンの宣べ伝えていることは、それがどんなに立派で、良いことであっても、中味のないものになる、私たちのキリストへの信仰がどんなに真面目で、真剣なものであっても、意味のないものになるとも言っています。そればかりか、「神がキリストをよみがえらせた」というメッセージは、もし、それが作り話であるなら、神に逆らう証言となり、神を冒とくすることになるとも言っています。実際、パウロが、クリスチャンになる前にサウロと言われていた時にクリスチャンを迫害したのは、復活してもいないイエスが復活した等と言い、イエスをキリストだと言っているクリスチャンの「偽りの罪」を見逃せなかったからです。しかし、パウロは、後に復活したキリストに出会い、罪を犯していたのは、キリストの復活を否定し、クリスチャンを迫害していた自分の方だということに気がきました。

キリストの復活は、私たちの人生の希望ですが、もし、キリストの復活が事実でなければ、その希望も、保証のないものになってしまいます。当時、クリスチャンは、心ある人々からは尊敬を受けましたが、そうでない人々からは「愚か者」「哀れな者」としてさげすまれていました。それでパウロは、17節から19節でこう言っています。「そして、もしキリストがよみがえらなかったとしたら、あなたがたの信仰は空しく、あなたがたは今なお自分の罪の中にいます。そうだとしたら、キリストにあって眠った者たちは、滅んでしまったことになります。もし私たちが、この地上のいのちにおいてのみ、キリストに望みを抱いているのなら、私たちはすべての人の中で一番哀れな者です。」キリストの復活が事実でなければ、クリスチャンほど哀れな者はないのです。

しかし、事実、キリストは復活され、今も生きておられます。キリストの復活を信じるクリスチャンは、この世で、一番しあわせな者であり、キリストの復活によって死にさえも打ち勝つ、人生の勝利者であり、永遠の命を約束された、最も希望に満ちた者なのです。

## 2) 復活の信仰

復活は事実です。私たちの周りには無数の様々な事実があります。教会の前を国道176号線が走っているのは事実です。3月末から4月初めに桜が咲くことも事実です。しかし、それが、もし、私たちにとって意味のないことであれば、いくら事実であっても、私たちの人生に何のインパクトもあたえません。しかし、キリストの復活は、そのような事実とは違います。それは、私たちに重大な意味のある事実、私たちの人生を変え、世界を変える事実です。キリストの復活は、イエスが神の子、キリストであることを証明します。この世界を造り支えておられるだけでなく、私たちひとりびとりを愛し、導かれる神がおられるということを、キリストの復活は宣言しています。キリストを心に救い主として迎える時、今まで自分の力だけに頼ってきた人生が、神と共に歩む人生に変えられていくのです。

また、キリストの復活は、キリストの十字架での死が、私たちの罪のための身代りの死であって、私たちは、キリストを信じることによって罪の赦しを得ていることを保証するものです。キリストが十字架で亡くなられたままで終わっていたなら、その十字架の死がどんなに感動的なものであっても、私たち

は、罪の赦しも、永遠の命も、天国も確信することはできないでしょう。しかし、キリストの復活によって、私たちは、キリストが永遠の命の与え主であることを確信することができるのです。キリストは天に帰り、父なる神の右の御座に着き、そこで私たちのためにとりなして下さり、私たちのための罪の赦しを確実なものにしてくださっています。キリストを信じる者は、キリストと共に天に場所を持つことができるのです。これらの事はみな、キリストが復活されたという事実に基づいて確信することができるのです。

そして、キリストが復活されたということは、死が終わりでないことを、私たちに教えてくれます。キリストの復活を信じる者たちも、やがて、復活にあずかることができるのです。コリント第一 15:20 に「しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。」とあります。キリストが初穂ということはあとに続々とよみがえるということです。もし、私たちの人生がこの世のものだけなら、生きていううちに好きなことをして、楽しめるだけ楽しんでおけば良いということになりがちでしょう。パウロの時代も、そうした生活をしている人が多くいたようで、パウロは、この手紙の 32 節で、その人たちの生き方考え方をこう言っています。「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ、明日は死ぬのだから。」(死んだら終わりだから) 余談ですが死んだら終わりならもっとはちゃめちゃな生き方をする人が出てもおかしくはないのですが不思議とそれほど出てきません。私たちは、キリストの復活によって死のかなたにも輝かしい将来があることを知っています。キリストの復活によって、私たちは良い生活の方向を定めることが出来るのです。

キリストの復活の大切さは、二千年前も、今も決して変わるものではありません。私たちがキリストの復活を信じるのは、それが「キリスト教の教えのひとつだから」というのでなく、私たちの人生に基盤を与え、日々の生活に力を与えるものだからです。復活の事実を、遠い世界のこととしてではなく、現代の私たちにとって意味のある、力のあるものとして生かすことが、私たちの「復活の信仰」なのです。過去の事実と現代の生活、将来の希望、これをつなぎあわせるために、さらに、私たちの信仰を働かせる必要があります。そしてそれを確信させてくれるのは聖霊の働きによります。聖霊もまたキリストが復活してくださったがゆえに、天に帰られる時に聖霊を送ると約束してくださったことに基づいて与えられたのです。

パウロは、テサロニケのクリスチャンにこう言っています。「神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私たちを救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。」(新改訳第三版テサロニケ第一 1:10) イエス・キリストの復活のことを他の人に言い広めたのはクリスチャン自身ではなく周りの人々なのだと言っています。クリスチャンが「キリストは生きておられる」と言って回ったのでなく、クリスチャンに触れた人々が、「クリスチャンたちが、迫害に遭っても、あんなに喜んでいられるのは、キリストが復活して、今も生きておられるからに違いない。」とお互いに話し合い、そうして、人から人へとキリストのことが伝えられていったのです。あの人の変わりようを見ていたらキリストが変えたと思えない。これこそ証しであり本当の伝道と言えるでしょう。どうしたら伝道出来るか？ これは大切なことです。しかし最も大切なことは復活の信仰によってどのように生きているかということではないでしょうか？ 私たちもそのように身をもってキリストの復活をあかししたいと思います。